

おすすめ動画をご紹介

・論文執筆のいろいろが聞ける 「卒論・修論執筆応援対談!」

スケジュールや参考にした本の他、困ったことや先生との関係など気になるアレコレもつまった盛りだくさんな内容となっています。興味があるところから聞くのもおすすめ!



・利用方法をテーマごとにご紹介する 「図書館 Tips」

図書館利用のキホン案内する初級編から、サービスを使いこなしたい方に向けた上級編まで、コンパクトにまとめた案内動画です。



先輩インタビューや館内バーチャルツアーなど
いろいろな動画を公開しています!



吉田南総合図書館の公式チャンネルをぜひチェックしてみてください!
Be sure to check out the YouTube channel of the Yoshida-South Library!

<https://www.youtube.com/channel/UCRnsQ5mdoryanXHMwqSghIQ>

環onのご案内



【Opening hours】weekday 8:40 - 18:30

【Access】人間・環境学研究科棟1F東側

※ご利用には学生証または図書館利用証が必要です。
※室内ではマスクの着用と手指の消毒、使用する席の消毒をお願いします。
※オンライン授業にご利用いただけます。

人間・環境学研究科棟の1Fには、「話せる図書館」がコンセプトの環onという部屋があります。こちらでは発話をともなうオンライン授業の受講も可能です(必ずマスクを着用してください)。

Wa-on is a library where you can talk. You can take online classes there.
Always wear a mask in the room.

京都大学 吉田南総合図書館 (愛称: 遺選館) 〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町
Tel : 075 (753) 6524, 6525 Email : a30yslib@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp
Web : <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/> Twitter : @yoshidasouthlib

Web



K A L I N



開館日程表 <2022年度後期> / Calendar

吉田南総合図書館は、下記の予定で開館いたします。なお、必要に応じ臨時に閉館する場合がございます。最新の開館日程については、Twitterやwebサイトにてご確認ください。

There might be a change in schedule. Please refer to our Twitter or website.

00 9:00-20:00 00 10:00-15:00(環on開室) 00 定例休館(環on開室) / Closed 00 休館 / Closed

10						
S	M	T	W	T	F	S
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11						
S	M	T	W	T	F	S
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12						
S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1 (2023)						
S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

3						
S	M	T	W	T	F	S
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

イベント予定 / Schedule

■ 秋季入学者オリエンテーション
8月22日-9月29日

■ 後期講習会
[1] レポート・卒論に役立つ
資料集め講座
10月21日、10月25日
各回とも12:15開始
(20分程度)

[2] おさらい講習会(仮)
2月頃を予定

■ 冬季休館
12月29日-1月3日

■ 春季特別貸出
2月頃を予定

■ 春季休館
3月25日-4月3日

■ Virtual Tour
August 22nd - September 29th

■ Guidance session
[1] Guidance session on how to use
library resources
October 21st 12:15pm
October 25th 12:15pm

[2] Writing Reports and Papers:
What You Need to Know
Scheduled for February

■ Closed in winter
December 29th - January 3rd

■ Long term loan for spring holiday
Scheduled for February

■ Closed in spring
March 25th - April 3rd

図書館からのお知らせは
こちらでCheck!



京都大学図書館機構
The Kyoto University Library Network



吉田南総合図書館
Twitter @yoshidasouthlib



吉田南総合図書館
Yoshida-South Library

裏面:「論文執筆 先輩へ⑩の質問」もご覧ください

Please look on the back.

先輩に⑩の質問

コロナ禍で海外文学を研究するということ

ポーランド文学を研究している博士課程の先輩に、修士論文執筆時のことを聞きました

①修論のテーマはどのように決めましたか？ また、テーマを決めるまでにかかった時間はどのくらいでしたか？

私の専門は「両大戦間期のポーランド文学」なのですが、自分の専門自体がそもそも修士二年のGWあたりに決まりました。これは学振(注1)に応募するために、将来のことを考えつつ東欧研究の動向を追う中で、自然と定まったものでした。ただ、専門が決まるのが遅かったこともあり、修論のテーマが決まったのも夏休み明けで、友人たちよりも遅かったように記憶しています。夏休み中にしたことは、先行研究を漁ること、そして博論までの研究計画の中で修論はどのような位置づけにあるのかを吟味することでした。私の場合は、取り上げる対象は卒論と同じ詩人だったので、卒論で扱った時代(ナチス占領下)よりも前の時代(両大戦間期)の作品群を扱うことに決めたので、かなり焦りながら文学作品や二次文献などを読んでるように思います。

このように書けば、修士一年には何をしていたのかと気になる方もおられるかもしれませんが。正直に言うと、修士一年は慣れないオンライン授業の予習や課題に追われて、あまり研究は進みませんでした。ですが、関心のある本や映画には触れるように意識していました。そこで得た知識や直感、あるいは表現などには修論を書く際には参考にしたいように思います。そんなわけでポーランド語詩を扱った修論なのに、鷲沢萌や北條民雄、ブリモ・レーヴィなどが登場する修論となっています(笑)

②いつ頃から準備を始めましたか？

修論を書くということを意識して準備し始めたのは、先にも書いたように修士二年の夏休みからです。具体的に何をしたいかと言うと、自分の関心はどこにあるのかということを知りたくて、博士課程で研究したいことを思い浮かべました。私の場合は懂れの研究者がいるので、彼の研究内容などを念頭に置きながらこの過程を進めたように思います。博士課程のことをある程度具体的に思い浮かべた後は、修論では何を書けば次のステップにつながるのか、しばしば吟味しました。吟味の過程では先行研究の存在に助けられました。自分が一から研究を始めると思えば途方もないですが、過去の研究者の肩に乗って論考を築いていくと思えば元気が出ませんか？ 過去の研究が集中しているところ、手薄なところを知るだけでもテーマ決定においては大きな前進となると思います。このようにしてある程度可能性のあるテーマを浮かび上がらせる間に夏休みは終わりました。

そして夏休み明けからは執筆に専念、と言えればいいのですが、ところがどっこい現実はその簡単には進まないようです(笑)

⑥外出制限がある中、執筆をする上でどのようなことに苦労しましたか？ また、それをどう解決しましたか？

コロナ禍でなければ留学して、現地の先生に詩の読み方や解釈などを教わる予定でした。またあちらの図書館を使って色々調べ物も出来ればなあと考えていました。しかし世界はコロナと向き合わざるを得なくなりました。まず一番困ったのは、ポーランド語の資料が手に入らないということでした。京大の図書館であってもポーランド語の文献は少なく、国内所蔵であっても貸出不可のことも多いようでした。この資料集めは本当に困りました。ただ、吉田南総合図書館に資料取り寄せサービス(注2)があることを知って、縦のような気持ちで取り寄せをお願いしました。その結果、コロナ禍にもかかわらず、ポーランドから多くの書籍や複写を取り寄せてくださり、どうにか研究を続けることが出来ました。また、ポーランドからの留学生まで紹介していただいて、彼には詩の解釈などでも大いに助けられました。

皆さんも先行研究を渉猟する過程で、手に入りづらい文献に出くわすことがきっとあると思います。そんな時には諦めずに、図書館の資料取り寄せサービスに頼ってみてください。ほぼ確実に入手できることは私が請け負います。とまれ、私は吉田南総合図書館の皆さんに本当に助けられました。時には書誌情報が曖昧な時もあったのですが(ごめんない)、親身になって文献を探してください、迅速に対応してくださいました。あまりに利用しすぎて顔を覚えられてしまいました(笑)、本当に頭が上がりません。

⑦論文執筆の間、一番助けになったことは何でしたか？

論文を書きながら、自分の考察が正しいのかと自身が持てなくなることや行き詰ることも多々あるかと思えます。そんな時には少し散歩をして映画館に行ったり、甘いものを食べにいったりして研究室を離れるようにしていました。また、執筆にだけ専念する環境を持つことが逆効果になるのではと思っていたので、適度に授業にも参加したり読書会を企画したりもしていました。

ただ、面白いもので、一見関係のないことをしているようでも、頭の中では修論に関する歯車は回り続けているようです。映画を観ている途中に、あるいは読書会の課題本を読んでいる最中に、「あっ」という閃きを何度も体験しました。ですので、研究室の机に座ることだけが研究じゃないんだと思っておくことが実は大切なかもしれません。

⑧文献管理はどのようにしていましたか？

参考になる箇所をコピーしてノートに貼ったり、書き抜いたりしていました。昔から私はデジタル機器とは相性が悪く、文献管理用のアプリなどもあると聞きますが、うまく使い(笑)



③論文執筆にかかった期間はどれくらいですか？

最初に白状してしまえば、本格的に執筆し始めたのは十一月初めからでした。これには理由があって、まず一つに考察がうまくまとまらなかったことが挙げられます。ある程度終わりが見えてくるようになってから書き始めたいと思っていたのですが、これは失敗でした。書いているうちに着想は湧いて来るものなので、あまり最初に考えすぎなくても良かったなあと反省しています。

もう一つに、学業以外に色々取り組むことがあって、執筆にあまり時間が取れなかったということも挙げられます。これは余談ですが、同時期に友人が制作した映画が映画館で上映されることとなって配給の手伝いをしたり、私の大好きな某女優の自伝が発売されるということとその書評を某出版社に寄稿したりなどなど。修論執筆を理由にして新しい可能性をつぶしたくないと考えた末に、色々関わらせてもらったのですが、やはりまとまった時間が取れないというのはなかなか大きな障壁だったように思います。そんなわけである程度諸々が落ち着いたら十一月初めから本格的に書き始めて、一月初めの提出日ギリギリまで書いていました。それこそ大晦日も三が日も研究室でパソコンを打ちながら過ごしました。

④最初に何から始めましたか？

夏休みにしたことは先述の通りです。夏休み明けにまずしたことは、第一章を書いてみました。自分が書きたいと思っていることがまとまった文章になれば、相談できる人も増えるはずだと思ったので。一週間で第一章を書き上げて、主査と副査の先生にお見せしました。そこで色々意見ももらい、そうした意見を参考にしながら第一章の修正と第二章の執筆を並行して進めました。「書けるどころ、書きたいところから書け」といつも先生は言ってくれたのですが、その言葉にはとても励まされました。

⑤論文作成で気を配ったところはどこですか？

自分の文章の中で自意識は馴致(じゅんち)されているかどうか、もっと平易に言えば説得力を持つて分かりやすく開かれた文章が書けているかどうかということに常に気をつけました。卒論ではそこがうまくいかずに悔しい想いをしたので。またそのために、文学や東欧の研究が専門でない多くの方にも読んでもらうようにしました。尤も、提出してからしばらくたった今読み返すと、馴致されていない自意識の蠢きを見出して嫌気が差すばかりなのですが(笑)



(注1)学振：日本学術振興会の略称。ここでは学振が募集している特別研究員制度を指します。

こなせません。ですので、文献や論文は紙にコピーし、大切なところにはマーカーを引き、ある程度読んだ量が溜まれば、知識の整理も兼ねて大学ノートにまとめていました。

⑨研究の醍醐味は何だと思えますか？

醍醐味を語れるほど研究をしているわけではありません。それに私は自分が研究者に向いているとも思っていないです。ですので、なぜ博士課程に上がったのかという問いに読み替えてお応えしたいと思います。おそらくその理由は、自分がほんの一瞬でも楽しいと思えて、時間も忘れられるような魅力を感じるのがポーランド文学にあったからなのだと思います。そしてその楽しさや魅力をもう少し味わってみたい、もっと知りたい、こう思ったからこそ博士課程に上がったのかなあとぼんやり感じています。

皆さんも、時間を忘れて没頭できる何かが見つけられたらきっと研究に対する見方も変わってくるのではないのでしょうか。

⑩先輩に「これだけは言っておきたい」アドバイスをお願いします。

もちろん論文の準備は早いに越したことはありません。けれど、アイデアが浮かばない時にはどうしたって浮かばないもの。やる気が出ない時にはどうしたって出ないものなんだと思います。そんな時にはあまり自分を追い詰めず、思い切って別の楽しいことをしてみてください。実はそれが、頭の中で密かに回っている歯車に潤滑油を注ぐことになったり(無論なっていないことだってあります)笑。するんじゃないかなあって。そんな体験に私は救われてきました、とだけ言い添えておきます。

(注2)資料取り寄せサービス：相互利用(しし)サービスの中で、他大学の図書館をはじめ、複数の図書館の間で資料の貸出や文献の複写などを行っています。学内に必要な資料(図書や雑誌がない場合にぜひ)利用ください。お申込みはご所属の図書館・室で受け付けています。

いかがでしたか？ コロナ禍で、世界中の研究者がこれまでのように研究を進めたり海外へ渡航したりすることが難しくなり、困難を感じる場面も多くなったと思います。そんな中でもみなさんの必要な資料を入手するため、図書館もできる限りの力を尽くしますので、お困りのことがありましたら、ぜひ一度ご相談ください。

インタビューに答えてくださった先輩も、準備が整い次第、ポーランドへの留学に再挑戦されるそうですよ！ スタッフ一同、京都から応援しています。

本インタビュー含め、総勢8人の先輩たちからのインタビューをまとめた冊子「先輩たちはこうしました」は当館Webサイトにて公開しています。

<http://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/yoshidasouthlib/news/2022/posters/senpai.pdf>

